

〈論文〉

WWWを対象にしたコンピュータ・ディスコース 研究の試み

田 辺 和 子

キーワード：コンピュータ媒介コミュニケーション、ウェブ・コーパス言語学、文法化、主観化、メタ言語機能

1. はじめに

コンピュータ・ディスコースというのは、ネットワーク化されたコンピュータを通して人間同士がメッセージをやりとりするときのコミュニケーションを指す (computer-mediated discourse, 以後, CMD と示す) (Herring, 2001: p.613)。そして、この研究は、コンピュータ媒介コミュニケーション研究 (computer-mediated communication, 以後, CMC と示す) の一環として位置付けられ、談話研究の分析手法を応用しようとするものである。本稿では、従来行われてきた談話研究の言語研究としての客観性の不十分さ、すなわちデータが短く、データ全体が示されないという欠点を補いながら、WWWを対象にしてCMDを試みた。一般に、CMDというとchatやe-mail通信などが主な研究対象で、WWW上のテキストは対象に含まないようだが、本稿は、(1)ブログ本文、(2)それらについて寄せられたコメントと、(3)コメントに対してのブログ作者の反応という3つの‘場’による相互コミュニケーションを研究する目的で、インターネットの上のテキストをコーパスとするウェブ・コーパス言語学の観点からコンピュータ・ディスコース分析の実践を行う。

先行研究としては、CMCに1990年代最初から取り組んできたSusan C.Herring(1996)の業績は、CMCの世界を拓いたとっていいだろう。一方、WWWをコーパスとみだてて言語研究を進めようとする流れは、Hundt, Nesselhauf & Biewer(2007)によって本格的な研究論文集が発表されたところである。

2. 研究目的

本研究の目的は、句表現「というか」(例：これは、「ぼたん」というか「ゆり」の花のようだ)における口語・縮約形としての変異形(とゆーか、てか、っか、っか等)が、もともとの「と

「というか」の意味を失いながら、構文論的・意味論的にどのように変化しているか考察することである（文法化）⁽¹⁾。さらに、それに伴って、文脈上の要素、すなわち、使用場面や使用状況、コミュニケーション機能がどのように変化するか考察したい。

3. 研究対象

本稿のデータは、ブログテキスト、“ギャル社長 藤田志穂 (sifow) の人気ブログ ギャル革命” <http://blog.livedoor.jp/sifow/> のブログ開設時 2005 年から 2008 年までの各年 1 月と 6 月分の全テキスト（ブログ本文・コメント文・コメントに対する答え）を対象に、「というか」の変異形が使われている部分を取り上げた（総例文数 117）。ブログ文書をコーパスとして使うことの本稿の特徴は、(1)その使用例がいつ使われたか詳細な年月日が把握できるので、使用例を正確に時系列に並べることができる。その結果、使用上の変化をつぶさに考察できる。(2)データの発話すべてがブログ本文を共有していて文脈を持つ文章例であるということである。使用者も確定できるので、1 個人の言語使用の変化を考察できる。したがって、ここでの 117 の総例文は、いわば一本の糸で繋がっている質的データで、従来のデータの型、すなわち個別的な 117 の文の集まりという量的データではない。

従来の談話研究は、データの全体像を明示することが習慣化されておらず、取り上げられた例が、データ全体の中でどの程度多く見られるのか、たった一例にすぎないのか、説明されることが少なかった。本稿では、該当例すべてを明らかにし、また、それらすべてを視野に入れた考察を行った。

4. 表の説明

表は、“ギャル社長 藤田志穂 (sifow) の人気ブログ ギャル革命” の全テキスト中の「というか」変異形の使用部分を、文中での位置・形式・機能別に整理したものである。以下に表の説明しながら、その内容について検証していきたい。

- ① 「文」の欄には、表中央にある「というか」ヴァリエーションの前後の文章を書き出した。
- ② 「レーベンシュタイン距離」とは、二つの文字列を一致させるための置換（挿入・削除）回数によって求められる文字列間距離⁽²⁾である。本表においては、「というか」という原型をレーベンシュタイン距離 2 の開始で「0（ゼロ）」と置き、各ヴァリエーションとの距離（何回の手続きで変換可能か）を定めた。
- ③ 「位置」欄は、「というか」のヴァリエーションが使われている場所である。行頭とは、行換えがなされる際に、変異形で次の行が始まっている場合である。
- ④ 「機能」欄は、「というか」の談話上の機能を情報改訂・情報添付・話題転換・相手の発言受け・順番取り（Turn-Taking）・緩衝辞・前に述べた自分の発言の引用・切り替えの 8 種類に分けいずれに当たるか記入したものである。機能の範疇分けでは、さまざまなレベルでの分

類ができるが、本稿は、「というか」の文法化の結果としての意味機能変化に着目したいという目的があるので、本来の意味である「軌道修正」⁽³⁾としての要素がどれほど残っているかに焦点を絞った。

- ⑤ 「前件」「後件」とは、「というか」ヴァリエーションの前後の文の内容を叙述と陳述、そのほか疑問・挨拶・呼びかけ・謝罪・祝辞と分類した。
- ⑥ 「範囲」の欄は、使われている「というか」変異形が、前後どれだけの範囲に対して、意味的な影響範囲としているか調べてみた。

5. 分析

5.1 個別分析

本項では、表の機能の種類ごとに例を取り出して具体的に考察したい。

5.1.1 情報改訂

例1：文番号 7/8（ブログ本文）

BIG になれますかねえ～?! ってか、なるつもりなんですけど♪笑)

「なれますかねえ～」に対して「なるつもりなんですけど」という言い換えをして、情報を改訂する目的で「ってか」を挿入している。この用法は、元々の句表現「というか」とほぼ同様の意味機能を果たしており、文法的にも、意味的にも同価なものが並立している。前件内容は、疑問符がついているが疑問形とは判断せず、心の内を述べた独り言の要素が強い発話として陳述とした。後件においては、自分の考えを他者に述べる形ではあるが主観的内容であるので陳述とした。影響を及ぼす「範囲」としては、「句」とした。

5.1.2 情報添付

例2：文番号 11/12（ブログ本文）

って思ったんです。ってか、目立ちたがりってのもあったのかもだけど……笑

上記の例は、例1より文法化が進み、情報改訂より意味の漂白化(bleaching)が見られる文である。改訂・修正というより前の情報に新たなものを加える色彩が強いと判断した。前件は、陳述、後件は、情報の提供がなされていると判断し叙述とした。ただし、この組み合わせは、文末表現を比較してみると「思ったんです」と「あったのかもだけど」(「あらたまった言い方」と「くだけた言い方」)というスピーチレベルの切り替えともなっている。「範囲」は、この場合非常に不明瞭であるが、「目立ちたがりである」ことが添付の対象と判断し「文」とした。

5.1.3 話題転換

例 3：文番号 17/18 (ブログ本文)

書きますね～ (顔)*

ってか，明日は撮影で下田まで行くから 5 時半集合…一体，あと何時間後に起きなきゃならないんだろう～ (顔)

上記の「ってか」は、「ってか」の前半とは異なった話題を後半で持ち出す際のつなぎ言葉として使用されている。したがってこの「ってか」は発話全体のディスコースを統御していると判断してよいだろう。そこで、話題転換の場合は、「範囲」は特定せず「なし」とする。前件は終助詞表現によって「陳述」、後件も「ならないんだろう」という主観表現により「陳述」とした。

* (顔) は、顔文字がここで挿入されていることをしめす。本論文では、顔文字の内容は議論しないことから、その emoticon の存在だけを示すことにした。

5.1.4 相手の発言受け

例 4：文番号 5/6 (コメントへの返事)

今まで行ったトコよりでっかくビックリしましたぁ (顔) ってか，力丸さんのイベにまぎれちゃって配ってもいいんですかぁ?!

ここでいう「力丸さんのイベント」というのは、この発言の前に「力丸さん」からのコメントでピラ配り参加を誘われているコンテキストがある。ここでは、まず自分の話題について話を始めたものの前の発言に話題をもどした形になる。そこで、相手の発言に内容を戻すディスコース・コントローラーの役割を果たしている。内容としては、前件は「びっくりした」という事実を伝える叙述、後件は、許可を求める疑問とした。使用域は、自分の発言全体である。

5.1.5 会話の順番受け (Turn-Taking)

例 5：文番号 21/22 (コメント)

てか，ランキング 70 位も落ちたのね

発話の開始時に使用する「というか」変異形の用法。フィラーや hedges とよばれるものとはほぼ同じ役割をしている。このコメントは、ブログの人気順位が落ちたことを揶揄している。機能として非難と定めた。この用法は、他のドメインである掲示板 2ch.net では、頻繁に使われるが、このブログではほとんどみられない使い方である。コメントの内容とともに、このブログに連帯意識を持つとうという意図はなくむしろ、相手を不快にすることを目的とした参加であることはこの言語使用形式に反映されている。

5.1.6 緩衝辞

例 6：文番号 35/36 (本文)

そしたら、ってか，判断と決断の差ってなんなの？

「いいよども」に当たるポーズ・間合いをとる目的で使われる用法である。前述⑤に非常に近い用法だが、使用される位置が、こちらのほうが制限がないという点において⑤とは区別するべきだと判断した。

5.1.7 以前に述べた自分の発言の引用

例7：文番号 84/85（コメントへの返事）

一緒に行きましょうねっ！（笑）ってか、日野はバリ②東京でしたねえ～（顔）おっちょこちょいですみません！！

「日野」の話題は、この前において会話の話題となっていて、「日野」がどこにあるか見当はずれの発言を志穂が自分でしていたことがわかり、ここで詫びている場面である。文番号 99/98 だけを視野において考えると「話題転換」である。しかし、既に話し合われた古い話題を引用して来るという要素を含んだ機能として、「話題転換」とは異なった機能として扱うことにし「自発言を引用」という範疇を作った。

5.1.8 切り替え

例8：文番号 86/87（コメントへの返事）

テストお疲れ様っ☆
ってか②、本当に大丈夫??

2007年ごろになると、挨拶+「というか」の変異形+疑問（例：大丈夫?）というようなパターン化が見られるようになる。挨拶の部分が「感謝」表現であることも多い。これは、文法化における一方向仮説において、最終的な段階で主観化・構文の固定化が起るといわれている現象に該当するだろう。ディスコースという視点においても、「決まり文句」化して、使用条件が限定されていくことが伺える。

機能分類については、実際は複数に関係する内容のものが多い。ただし、互いに関連性が強いものと弱いものがある。「話題転換」と「切り替え」は、判断に迷うことがしばしばあった。話題転換は、明らかに前件で使われなかったあたらしい語彙が後件で出現した時、「切り替え」は、文体・口調において「あらたまり」から「くだけた言い方」というようにメタ言語的要素が含まれる時に使うようにした。

5.2 全体分析

本項目では、表全体に見られる変化の特徴について述べる。

- ① 使用位置としては、2005年から2006年までは、文中・文頭にも使われていたが、2007年あたりから、機能や使用範囲に関係なく行頭に使用されることが圧倒的に多くなった。
- ② 「というか」変異形の使用の変遷としてプログライターの志穂が、2005年開設当初は「って

か」を使っているが、2007年1月あたりは「とゅーか」「とゅーか」と原型「というか」に近い形の使用がみられ、その後「ってか」に再度戻って固定化していくことがわかる。

- ③ 「ってか」使用の欄を見ていくと、2005年から2007年1月ぐらまでは、志穂はブログ本文中で使うことが多かったが、その後次第に送られてきたコメントへの対応に使う頻度が増える。これは、「というか」の文法化が元々の役割である「情報改訂」から譲歩の意味合いが薄れ「情報添付」となり、さらには使用域が薄れ修正機能が残り「話題転換」として働き、最終的には対人化を強め会話中に使われるようになり、語用化を深めていった結果である。書き言葉の機能から話し言葉の機能へとの変換が見られるとも言える。
- ④ 機能欄「切り替え」は、メタ言語的要素⁽⁴⁾の強いものが含まれる転換現象（例：フォーマル・インフォーマル、感謝・挨拶・呼びかけ・感動）で、2007年6月以降に増えている。

6. 結論

本稿は、「というか」のウェブ上の使用変遷を考察することで、文法化の変化に伴う文脈的变化（誰が、どのような場で、誰に向かって、何を目的に）を明確にした。

句表現であった「というか」が最終的には、主観化し、メタ言語的機能を獲得し、会話の切り替えや順番取りの機能やフィルターのような役割をするようになる。そして、その過程の途中には、「この場面ではこう言う」といったいわば「談話運びの定型化」という使用条件の固定化・制限化のプロセスが見られた。ある集団において言語使用の共有ということは、この慣習化された「決まり文句」ならぬ「決まりディスコース」の学び合い活動といえるのだろう。

謝辞

本稿執筆にあたり、井上史雄先生には、貴重なご教示をいただいたことを深く御礼申し上げます。

〈注〉

- (1) Hopper & Traugott (1993) は、文法化を次のように定義している。“the process whereby lexical items and constructions come in certain linguistic contexts to serve grammatical functions, and once grammaticalized, continue to develop new grammatical functions.”
- (2) レーベンシュタイン距離は、Heeringa (2004) によってドイツ語方言の分析に利用された。

	て	ゆ
と	1	2
い	2	2

左のようなマッチング作業によって「というか」に対して「てゆうか」のレーベンシュタイン距離を計算する。この場合、レーベンシュタイン距離は2。

- (3) 福原裕一 (2008) 博士論文要約, p. 4.
- (4) マグロイン花岡 (2007: 170) は、「ていうか」の機能を「メタ言語否定」と呼び、Horn (1985) による定義「命題に対しての真偽値的・意味論的演算子ではなく、前者の発話に対して反対する（意義を唱える、否認する）ための装置であり、その際否定されるのは（命題ではなく）慣習的・会話敵含意、発音、形態素、スタイル、使用域などである」を紹介している。

参考文献

- 福原裕一 (2008) 東北大学大学院国際文化研究科博士論文「若者言葉のフェイス・ワーク」
- Heeringa, Wilbert (2004) Measuring Dialect Pronunciation Differences using Levenshtein Distance. *Groningen Dissertations in Linguistics* 46.
- Herring, Susan C. (ed.) (1996) *Computer-Mediated Communication*. John Benjamins.
- Hopper, P. J. & Traugott, E. C. (1993) *Grammaticalization*. Cambridge.
- Hundt, Marianne, Nesselhauf, Nadja & Biewer, Carolin (2007) *Corpus Linguistics and the Web*. Rodopi.
- McGloin, Naomi Hanaoka (2007) 「文頭の「ていうか」とメタ言語否定」久野他編『言語学の諸相』
- 宇佐美まゆみ (1999) 「交感的コミュニケーションとしてのあいさつ行動」『国文学』第44巻6号